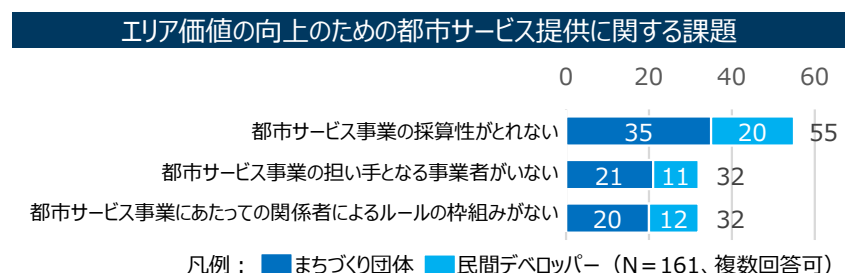


- エリアマネジメントの重要性が高まる一方、財源の確保・担い手の確保・関係者間の合意形成が課題。
- エリマネ活動が地域に与える効果を適正に評価することで、関係者の合意形成につながり、エリアマネジメント活動による受益者負担を促し、新たな人材のエリアマネジメント活動への参画促進など、現状の課題解決へ繋げていくことが必要。
- また、エリマネ活動に対する自己評価により、これまでの活動の見直し、取組の改善や活動領域の拡大を図ることが有用。

■ エリアマネジメント活動における課題

エリアマネジメントの担い手であるまちづくり団体等からは、採算性や担い手確保、合意形成が課題として挙げられる



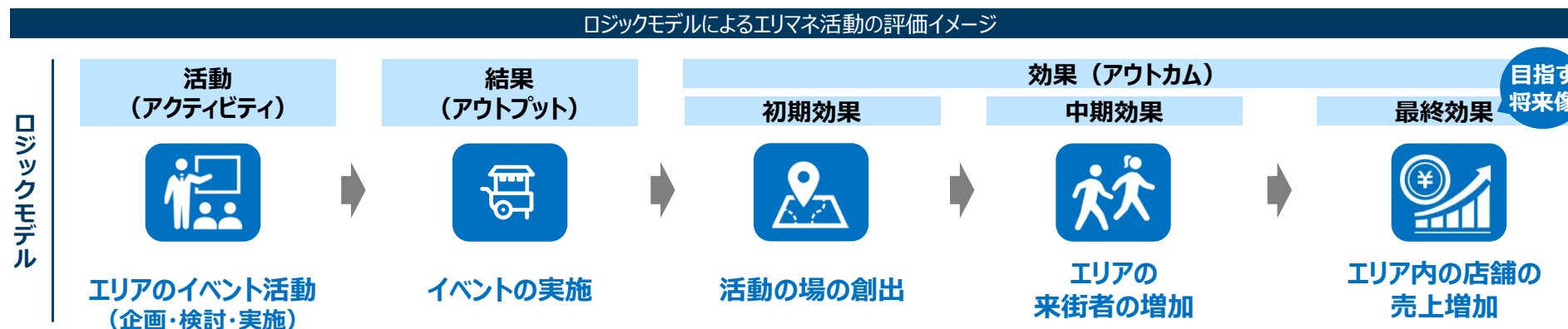
■ ガイドライン活用のターゲット

エリアマネジメント団体が自らの活動を評価する際に活用することあわせて、関係者の方たちにエリアマネジメント活動の効果を理解・認識していただくことを想定



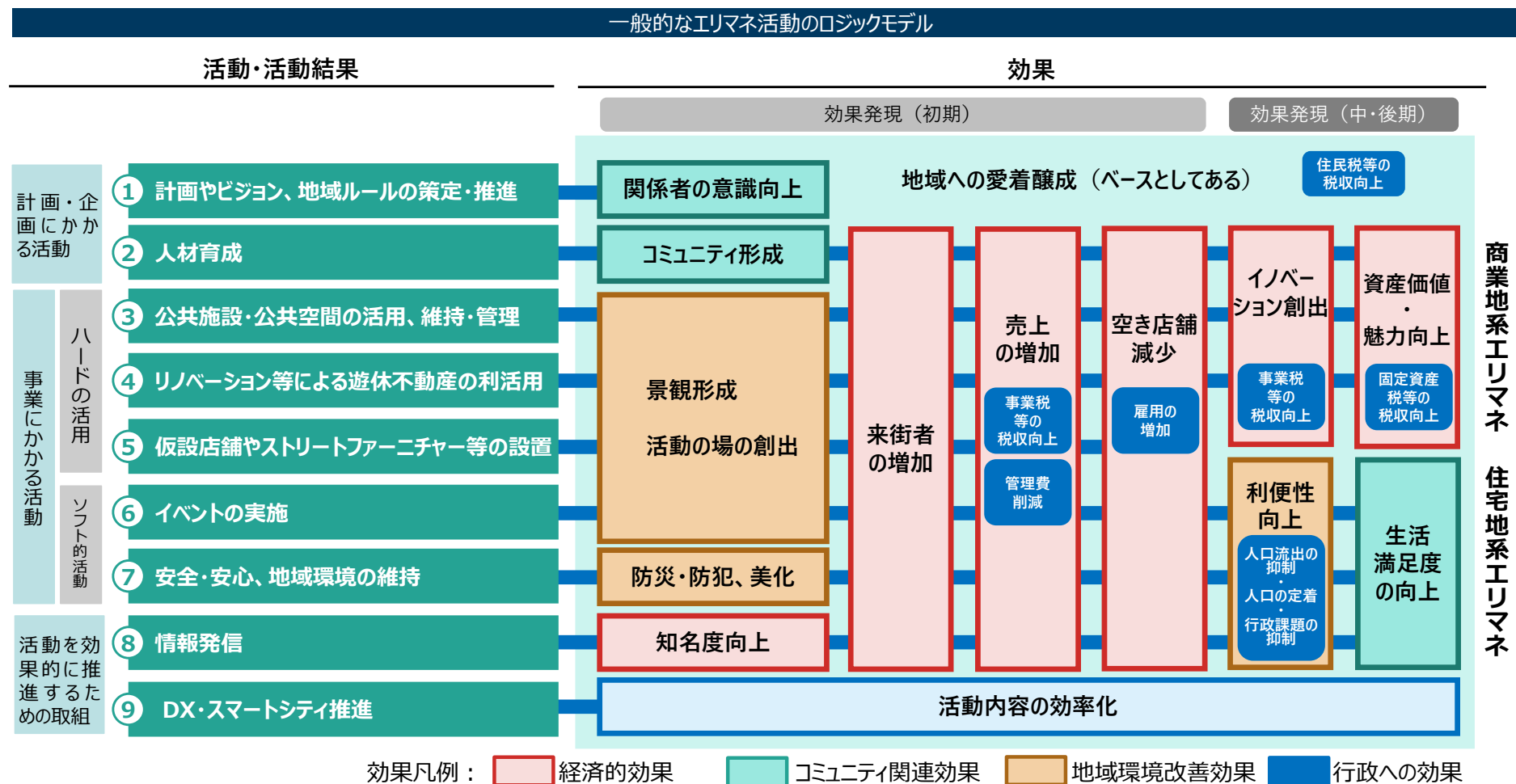
■ ガイドラインで示すエリアマネジメント活動の評価手法

エリアマネジメント活動の**内容（アクティビティ）**と**活動結果（アウトプット）**、**活動効果（アウトカム）**を最終目標とする将来像までロジックモデルでつなぎ合わせていき、ロジックモデルの各段階にある活動結果や活動効果を評価する指標を設定することで、エリアマネジメント活動による効果を段階的に評価する手法を提示



■ エリアマネジメント活動評価のロジックモデル（概要）

一般的なエリアマネジメント活動とその効果を類型化し、活動と効果の関係を単純化したロジックモデルを例示



■ エリアマネジメント活動のモデル評価のトライアル検証

- エリアマネジメント活動の評価手法をわかりやすく示すため、主要な都市機能である住居系エリア・商業系エリア・業務系エリア、それぞれについて1か所のモデル地区を選定し、実際に行われている活動と、それによる効果測定を検証
- 今後のガイドライン活用の参考資料となるよう、各地区ではエリアマネジメントの実践者との意見交換から、ロジックモデルの構築と評価にかかる意見や、今後の取組への活用などについてのコメントを掲載